

トビウオ通信 (H23 第4号)

(本誌はホームページでもご覧いただけます。ホームページにはバックナンバーもあります。)
<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《平成22年漁期の底びき網漁業の動向》

小型底びき網1種漁業 (かけまわし)

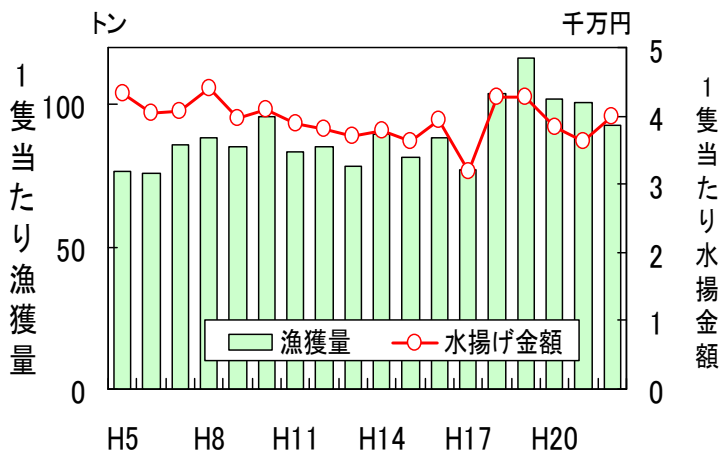


図1 小型底びき網漁業における1隻当たり漁獲量と水揚げ金額の経年変化

ソウハチ 平年を上回る

ソウハチのCPUEは21.7トンで、平年の1.3倍の水揚げとなりました。ただ、漁場が沖合化しており、漁獲圧を高めながらの操業となっていることから、今後の動向に注意する必要があります。ムシガレイのCPUEは平年をやや下回る4.5トンでした。また、ヤナギムシガレイのCPUEは1.7トン、メイタガレイのCPUEは0.6トンでした。

ケンサキイカ 過去最高!

ケンサキイカのCPUEは5.3トンで、平年の1.9倍の水揚げとなり、H5年以降最高の水揚げとなりました。特に秋漁がまとまり、好調の要因となりました。一方、ヤリイカのCPUEは1.2トンで、平年の8割の水揚げに留まりました。

アカムツ・キダイ 過去最高!

アカムツのCPUEは4.2トンで、平年の1.8倍の水揚げがあり、H5年以降最高の水揚げとなりました。ニギスのCPUEは11.0トンで、平年並みでした。キダイのCPUEは9.1トンで平年の1.6倍の水揚げがあり、H5年以降最高の水揚げとなりました。また、アンコウのCPUEは9.2トン、アナゴ類のCPUEは3.7トンで平年を上回る水揚げがありました。

1隻当たり漁獲量・金額、平年並み!

島根県の小型底びき網1種漁業(かけまわし)51隻*の平成22年漁期(平成22年9月1日～平成23年5月31日)の総漁獲量は5,695トン、総水揚げ金額は20億2,914万円でした。1隻当たり漁獲量(以下、CPUE)は92.7トン、水揚げ金額は3,979万円で、漁獲量は前漁期を下回りましたが、水揚げ金額は前漁期を上回りました。また、平年値(過去10ヶ年平均値;92.2トン、3,805万円)との比較では、平年並みの漁獲量、金額となりました(図1)。
 *当漁業における島根県全体の操業隻数は53隻ですが、統計は51隻分の集計です。

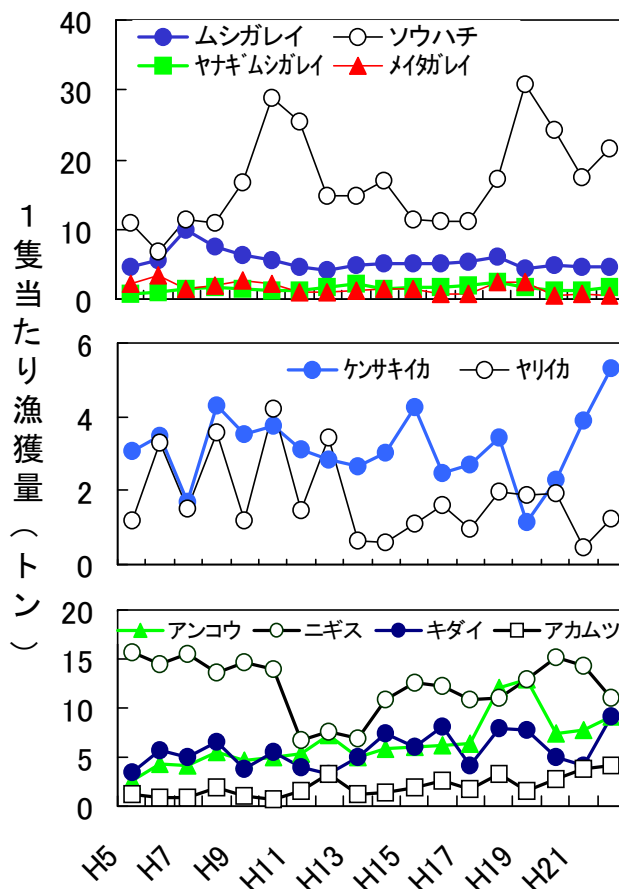


図2 小型底びき網漁業における主要魚種の動向

沖合底びき網漁業(2そうびき) (県西部)

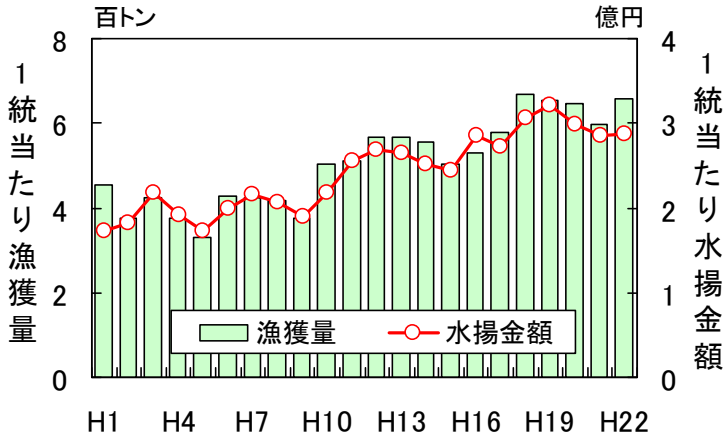


図3 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における1統当たり漁獲量・水揚金額の動向

1 統当たり漁獲量・金額、平年を上回る！

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業（操業統数5ヶ統）の平成22年漁期（平成22年8月16日～23年5月31日）の総漁獲量は3,286トン、総水揚金額は14億3,838万円でした。また1統当たりでは、漁獲量657トン、水揚げ金額2億8,768万円で、漁獲量は前年・平年を10%上回りましたが、水揚げ金額は前年・平年並みとなりました【平年（過去10年平均値 587ト、2億7,987万円）】。今期は、大型クラゲの影響もなく、比較的安定した操業となりました（図3）。

カレイ類 全般的に低調

主要魚種であるムシガレイのCPUEは73トンで、平年、前漁期の8割の水揚げに留まりました。一方、ソウハチのCPUEは41トンで、前漁期を3割上回りましたが、平年並みの水揚げとなりました。またヤナギムシガレイのCPUEは15トンで、前漁期の9割、平年の8割の水揚げに留まりました。

ケンサキカ 好調！

ケンサキカのCPUEは76トンで、平年の1.9倍の水揚げでした。秋漁が好漁であったうえ、近年低調であった春漁が好調に推移し、H16漁期以降久しぶりに50トンを超える水揚げとなりました。また、ヤリイカのCPUEは4トンで、前漁期を上回りましたが、平年の6割の水揚げで、資源回復の傾向は見られませんでした。

アナゴ類好調！キダイ過去最高！

アカムツのCPUEは16トンで、平年並みの水揚げとなりました。春季に漁がまとまる小型魚（メッキン）が今期は低調に推移し、漁獲が伸び悩みました。アナゴのCPUEは54トンで、前漁期の1.4倍、平年の1.5倍となり、好調に推移しました。しかし、例年に比べ漁獲サイズの小型化が目立ち、今後の動向に注意する必要があります。一方、アンコウのCPUEは36トンで、前漁期を上回りましたが、平年の9割の水揚げに留まりました。またキダイのCPUEは63トンで、前漁期の2.4倍、平年の2.1倍の水揚げとなり、統計の残っている昭和56年以降以降最高の水揚げとなりました。

この他、今期は大型クラゲの来遊がなくイボダイの水揚げは低調であり、CPUEは3トンで前漁期を大きく下回りました。さらに、近年、冬季から春季にまとまった水揚げのあるマフグですが、今期は1～3月にまとまった漁があり、CPUEは前漁期を下回りましたが43トンの水揚げがありました。また、漁獲量としてはあまり多くありませんがヒラメの漁獲量（8.7トン）もキダイと同様、昭和56年以降以降最高の水揚げとなりました。

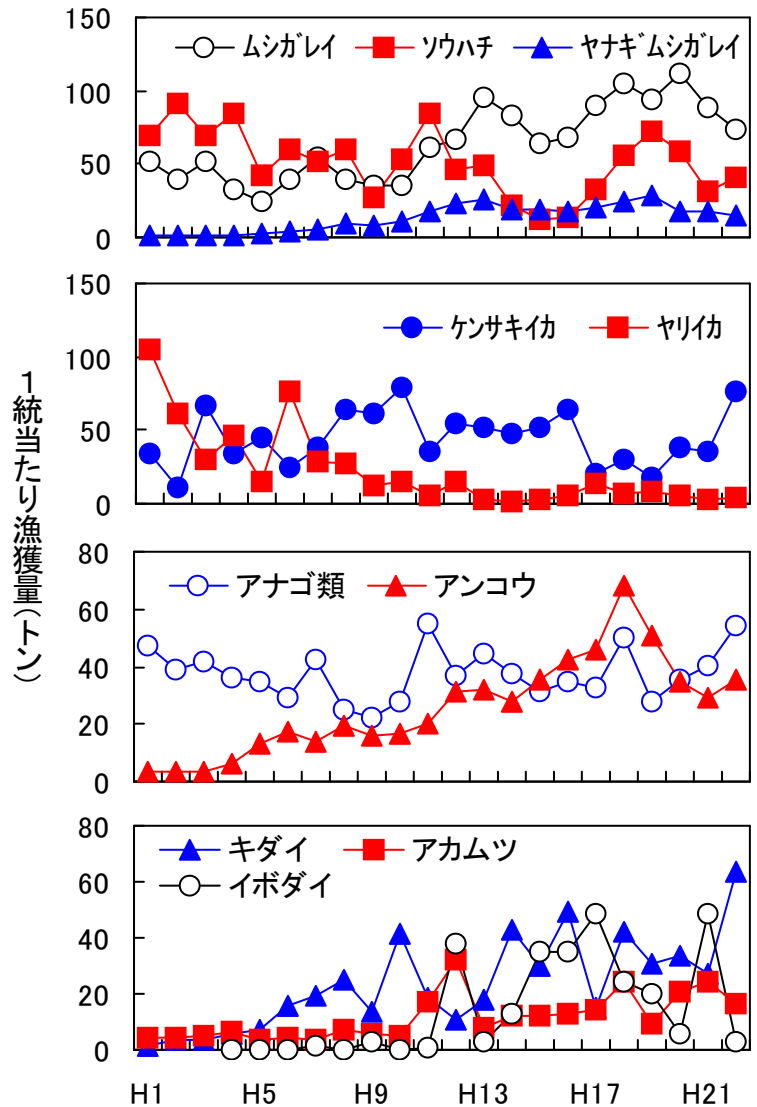


図4 浜田港を基地とする沖合底曳網漁業における主要魚種の動向